

主任コラム2月号

主任 澤井 良子

今月はいよいよ生活発表会があります。12月ごろから幼児クラスでは「どういうものをしたい？」と、保育士と子どもが話し合いながら準備を進めてきました。年長児はその時代に流行った物や遊びについて、職員やお家の方に「どんな遊びや、流行った曲はなに？」と聞いてみたり、それを文字にしてポストイットに貼ったり、iPadを用いて自分たちで調べたり「やらされる」でなく「自分たちで興味をもって取り組む」ということを大切に取り組んできました。

0・1歳児は、4月から慣れ親しんだ手遊びや・表現遊び、そして朝の集まりの様子を発表します。2歳児は、会話のやりとりが少しずつできるようになってきた姿や、お散歩などで親しんだ「かくれんぼ」を取り入れた遊びを発表します。生活発表会は、子どもたち一人ひとりの【言葉と表現の発達】をみていただけたらと思います。3・4・5歳児では、「自分でこれがやりたい」「これが得意かも」という気持ちを大切にしながら、内容を選んでいきます。ながさわ保育園では、発表会に向けての【練習】という練習はしていませんが、「どこに立つのかな？」「お友達はどこ？」「小道具はここ」そんな確認をしながら取り組んでいます。

先日、0・1歳児から5歳児までホールで活動している様子を見ていました。0歳児がリズムによって身体を揺らしていたり、1歳児の様子をみて真似ていたり、0歳児の月齢の高い子が1歳児と同じような表現をしている姿もみられました。1歳児では、できない動きをお友達と支え合ったりする場面もありました。2歳児では、お友達とつながることを楽しみながら（同僚性の育つ時期です）、自分の好きな動きを思いきり表現している姿が印象的でした。3・4・5歳児では、4歳児が保育士に声を掛けられながらセリフのやり取りをし、5歳児になると自分たちで覚えたセリフで進めていました。それぞれの年齢の育ちがよくわかる中で、ダンスを見ていて特に心に残ったのは、「こうしたほうがいいよ！」と言われて覚えた振りではなく、子ども達が振りを見て、感じ取って表現している姿でした。同じ振りでも、表現の仕方は一人ひとり違って、自分なりのダンスを楽しんでいるようでした。

園では「みんなで揃えること」よりも、「その子らしい表現」を大切にしたいと思っています。去年の姿を思い出しながら見ていると、どの子も大きくなったなあと感じます。ぜひ他の子と比べるのではなく、去年のお子さんの姿と比べての成長を感じていただけたら嬉しいです。

そして、今年度から、幼児クラスの保育士の案で、年長児がお手伝い保育やお当番活動を年中児とペアになって伝授していく…ということを始めました。掃除のやり方や、小さい子との関わり方を優しく丁寧に教えてくれています。自分たちが体験したことを誰かに伝えるということは、年長児にとっても、年中児にとっても大切な学びです。その姿がまた次の世代へとつながっていくのだなど、嬉しく思っています。ペアの様子は、お部屋にも掲示してありますので、送迎の際にぜひご覧ください。

